

プロフィール（自己PR）

高校の英語教師として、授業や生徒の自主的課外活動の中で、高校生の英語力の低さの根底に、日本語力や文化力の低さに問題があることを知りました。場面文脈ではなく直訳の傾向、ネイティブ並み意識、コミュニケーションの手段意識が起因していると思われました。言葉は、態度、行動と共に、思考、文化、価値観の表層部分です。そこで外国人のための日本語教育に進みました。

当時、英語教育界や国語教育界は「海を泳ぐ／で泳ぐ」、「驚く／びっくりする」、「僕はウナギだ／I am an eel」、「レポート言語（論理的）とラポール言語（情意伝達）」などの問題に焦点を当てていませんでした。仲介言語による指導と学習言語だけの指導という指導方法の追究もありませんでした。日本語教育は、目的・目標意識と学習者の多様性のため、これらを重視していました。そこで、47年間、様々な国籍・母語の児童生徒から社会人、学習目的・目標、耳や目が不自由な人への日本語教育に、研究・開発、実践、教師教育、外国語教育の面から関わってきました。また自律的な学習の観点から、1995年からコンピュータ活用教育、基盤となるリソース（物的・社会的）整備に取り組みました。さらに文化庁国語課専門職員として言語教育行政施策にも関わりました。

学習には、学習者自身が自律的に目的・目標の意識を強く持つということが要因の一つです。マンダラチャートの大谷選手のように、目的・目標の意識を持ち、経験だけから学ぶ知識中心ではなく、経験に加えて日本語・世界語・問題解決力・データ活用力・AIリテラシーなど、社会を生き抜く基礎教養を身につけた人材の育成が今後の日本にとって重要な課題です。基礎教養を身につけた人材を育成するには、地域社会、学校、家庭がキュレーター、ファシリテーター、エバリュエーター、ガイド、サポーター、モチベーターの役割を協働して担う価値観や、リソース（人的・物的・社会的）の蓄積や活用が支えとなります。体力年齢50代、創造力、行動力、しつこさをもって、このような人材育成に向けた社会作りに全力で取り組みたいと思います。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題）自ら考え、学び、行動する人材育成について について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1) マンダラチャート（イメージの花火など）を幅広く活用
- 2) ポートフォリオ、ループブックとパフォーマンス評価による能力評価
- 3) グループティーチングではなく真のチームティーチングによる教育活動
- 4) 知識ではなく知恵を重視するためにメタ認知ストラテジーを重視
- 5) ラポート言語（主観的）とレポート言語（客観的）の教育の取組み

2.（課題）学びの環境整備としてのAIリテラシー教育について について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1) ツールとしてのICTの理解と影響の啓発活動
- 2) データサイエンス教育
- 3) AI活用も含めた共創学習（co-creation）の環境整備
- 4) 学校、地域社会、家庭の連携による倫理教育
- 5) 収集能力・編成能力・反復改善能力を重視した教育活動

3.（課題）学びの連続性・連鎖性について について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- 1) 児童生徒、市民を巻き込んだシティズンシップ教育活動
- 2) ソーシャル・ネットワーキング・アプローチによる縦横の人間関係作り
- 3) 異文化ではなく多文化理解の教育活動
- 4) 反転学習を使った文化のキュレーション活動
- 5) 社会的リソースの整備

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

教育委員の役割というものを、住民のneedsとwantsの把握と、それをもとに政策の提案やアイデアの提供、住民に政策施策への理解と協力求め、地域社会との連携の一助と理解しております。首相所信表明演説でも公教育（広義）に言及がありました。資源の乏しい日本にとって、人材の育成は、社会全体で取り組むべき喫緊かつ継続的な課題です。

理念を述べるのは容易ですが、それを具現化するのは、容易ではありません。しかし、しなければならない最優先の課題であることは巷の話を聞いていても周知されています。教育は今を教えなければなりません。そして、先を見る学びを教えることです。そのためには、学びの環境の整備が不可欠です。

教育委員のこれからの役割は一層重く大きいと思いますが、中野区に住んで30年。中野区から東京、日本、そして世界に発信できる取り組みを進める一助を担いたいと考え、応募する気持ちを強くした次第です。